

日時 H26. 6. 18（水） 15:30～

場所 飯山市公民館 102 会議室

1 開 会

2 辞令交付

油科 淳太郎委員へ辞令交付

3 あいさつ

・協議会長

今回から新しく油科先生に委員としてご出席願うこととなりました。これからよろしくお願ひします。今年度の事業、その先の計画ともに積極的に進め行ってもらいたいと思う。

・教育長

今日は忙しい中、また遠方から出席をいただきありがとうございます。

この近辺で美術館がない所がたくさんある中で飯山市には美術館がある。それだけに美術館から情報発信をしていくことがいろいろな意味で飯山市にとってプラスになるのではないかと思う。若い人が美術に携わることが減っているということに関しては、学校教育にも責任の一端はあるのではないかと感じている。ぜひいろんな所に関心を持ちながら、自分の才能をいろんな所で発揮できるような子供たちを育成するためにも美術館の役割は非常に大きいと思う。それだけに斬新なアイデアを出して情報発信を続けて欲しいと思う。特に新幹線開通後は、絵が好きな方がたくさん飯山を訪れてくれると思う。そんな時に、飯山の美術館は小さいけど良い美術館だったなあという形にしていくことが、飯山市に住んでいる私たちが誇りに思えることに繋がって行くと思う。地味な活動ではあるが、意欲を持って積極的に取り組んで欲しい。

また、委員の皆様からは忌憚のないご意見をいただきながら、美術館運営を更に充実したものにさせていただくことをお願ひしまして、私からのお願ひとごあいさつに代えさせていただきます。

4 自己紹介

5 会長職務代理指名

会長より、油科委員を指名

6 協議事項

(1) 平成 25 年度事業報告について

事務局：資料 3～6 ページについて説明

会 長：中学生対象のワークショップどんな子供たちが参加しているか。

事務局：中学校美術部の子もいれば、美術部でないけれど絵を描くのが好きだということで参加した子もいる。

会 長：子供たちが興味を持ってこのような場に参加してくれると良いという思いから聞かせていただいた。

事務局：毎年城南・城北中学校美術部展で展示される作品を見ていて、学年が進むにつれて技術が向上しているという風にあまり感じられず、部活で指導を受ける時間が少ないので仕方のない面もあるが、美術館として、美術についてもっと勉強したいという子供のために時間と機会を作って、技術の向上を助けることができれば良いと言うところから始めたのがこのワークショップである。そのようなことから、去年は中学生対象ということにして開催した。

会 長：そのようなことがこれからも続けられると良いと思う。

委 員：県展や国展に行くと、若い人たちが少なくなっている。若い人が美術に接する時間が少なくなっている。衰退の一途である。何か我々の世代で手伝えること、手を打たなければいけないこと、後々の生きがいになったりすることもあるので、必要だと思う。

(2) 平成 26 年度事業計画について

事務局：資料 7～8 ページについて説明

教育長：五郷研修館の年間の活用状況は掌握しているか。

事務局：一覧にしたりしてまとめてはいない。来る時期や人数も一定ではないが、回数にすると年間 3～4 回ではないかと思う。1 回来ると 2 日間くらい滞在するというパターンである。冬季は来ない。

教育長：カギの管理はどのようにしているか。

事務局：美術館からカギを借りて行くということではなく、個々にカギを持って利用していただいている。

会 長：光熱水費などの維持管理費はどうなっているか。

事務局：基本的な部分は生涯学習係で負担している。基本部分を越えた分については、年度末精算で作家さん方に負担していただいている。

教育長：1 年間に何回か行ってみて、もう少し実態を把握するべきではないか。

会 長：ギャラリーの企画展について、子供たちの展覧会で受賞した作品などを展示するなど、何かできないだろうか。

委 員：北信美術展で毎年行っている「小さな芸術家展」は関係の家族などがたくさん足を運ぶ。

館 長：城南城北中学校美術部展の時にスペースが許せば特別出展という形も良いのではないか。

会 長：何か子供たちが参加できる良い方法はないだろうか。

事務局：館内に子供たちの作品を展示して無料でご覧いただく企画なども以前から考えはするが、施設の構造上、ここは有料ここは無料というような明確な表示をすることがむずかしい。そういったことをハッキリ表示することで、来館者に対して印象を悪くするのではないかということも言われている。

会 長：そのような時は、全館無料にするというような措置はどのようなのだろうか。

館 長：入館料が 1 つのネックになっているとすれば、教育長決裁で行けるのであれば、今のようなことを文書であげてみてはどうか。

事務局：伝産会館部分もあり、上だけ有料という料金設定もしていないため、難しい面もある。

館 長：それがネックでだめだという事であれば諦めるが、子供たちのためであるので、尋ねて

みる価値はあると思う。

部 長：伝産会館の管理の面で商工観光課は関わっている。常にではなくて、そのような目的で入館無料ということであれば、私自身は問題無いと思うし観光サイドも問題ないと思うが、仏壇組合サイドでどのように考えるかというのが、他団体のことでもあるのでわからない面がある。

館 長：文書あげる前に打診をしながら、可能性があるようであればトライして行きたい。

(3) 平成 27 年度以降の企画展（案）について

事務局：資料 9～10 ページについて説明

教育長：沿線美術館の企画展で、上越と黒部を選んだ理由は何か。沿線となっている地域は他にもあり、飯山市とも協定を結んでいる魚津市もあるが、そのあたりは視野に入れていないのか。

事務局：美術館があるところから選んでおり、協定の件は特に加味していない。

教育長：そのような関係があるところであればかなり協力的にはなるし、お互いに行ったり来たりきっかけにもなる。どうしてもこの 2 つが大事ということであれば話は別だが、そういう面も考えながら選んでもらうと良いと思う。

館 長：飯山市との今後の交流もあるため、まだ案の案の段階であるため、黒部・上越に限定しないで向こうに失礼の無いようにしていきたい。

会 長：この企画の最初の発想というのはこの点であったはずなので、大事にして欲しい。

会 長：全館を使っての企画展ということになるとかなりの点数が必要になると思われるが。

教育長：その点はまた検討してみたい。

館 長：以前の協議会からこの企画の話は出ており、素晴らしい企画には違いないと思っているため、今いただいたご意見などを踏まえて予算や作品の数など検討してみたい。

会 長：中川さんの企画展について、中野市との絡みは大丈夫か。地元の芸術家の作品展を考えているのによそで先に開催するのか、という話がよくある。

館 長：その場合、どういった方面へ表敬のあいさつをしておけば良いのか。

会 長：教育委員会でよいのではないか。電話でもかまわないと思うので、確認しておいた方が間違いないと思う。

(4) その他

特になし

7 その他

事務局：資料 11～13 ページの関係作家一覧について説明

8 閉 会 (16:55 終了)